

都市構造可視化

～津波避難計画への活用の可能性～



岩手県久慈市政策推進課

1. 岩手県久慈市の概要

平成18年3月6日
(旧久慈市と旧山形村が合併)



○人口 **32,006人** (令和5年12月末)

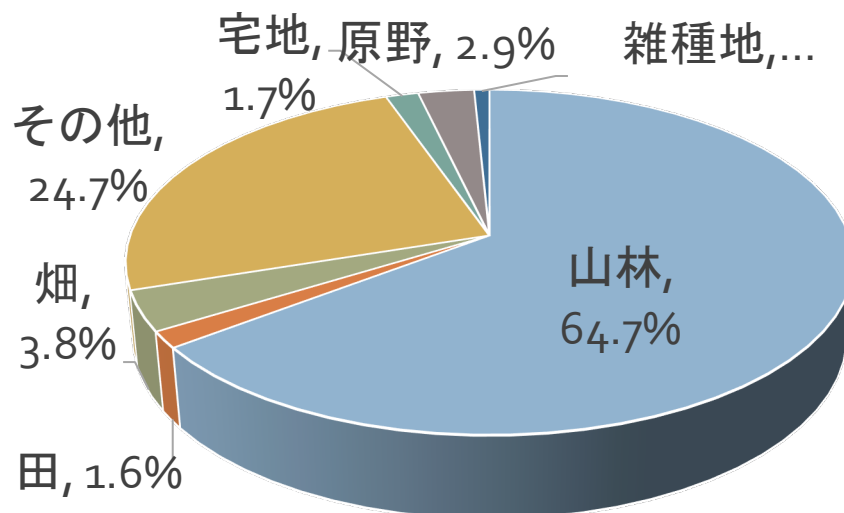
- ・年少人口 (0～14歳) 3,182人 (9.9%)
- ・生産年齢人口 (15～64歳) 17,396人 (54.4%)
- ・高齢人口 (65歳～) 11,428人 (35.7%)

○面積 **623.50 k m²**

(旧久慈市327.84km²、旧山形村295.66 k m²)

- ・可住地面積約10km²

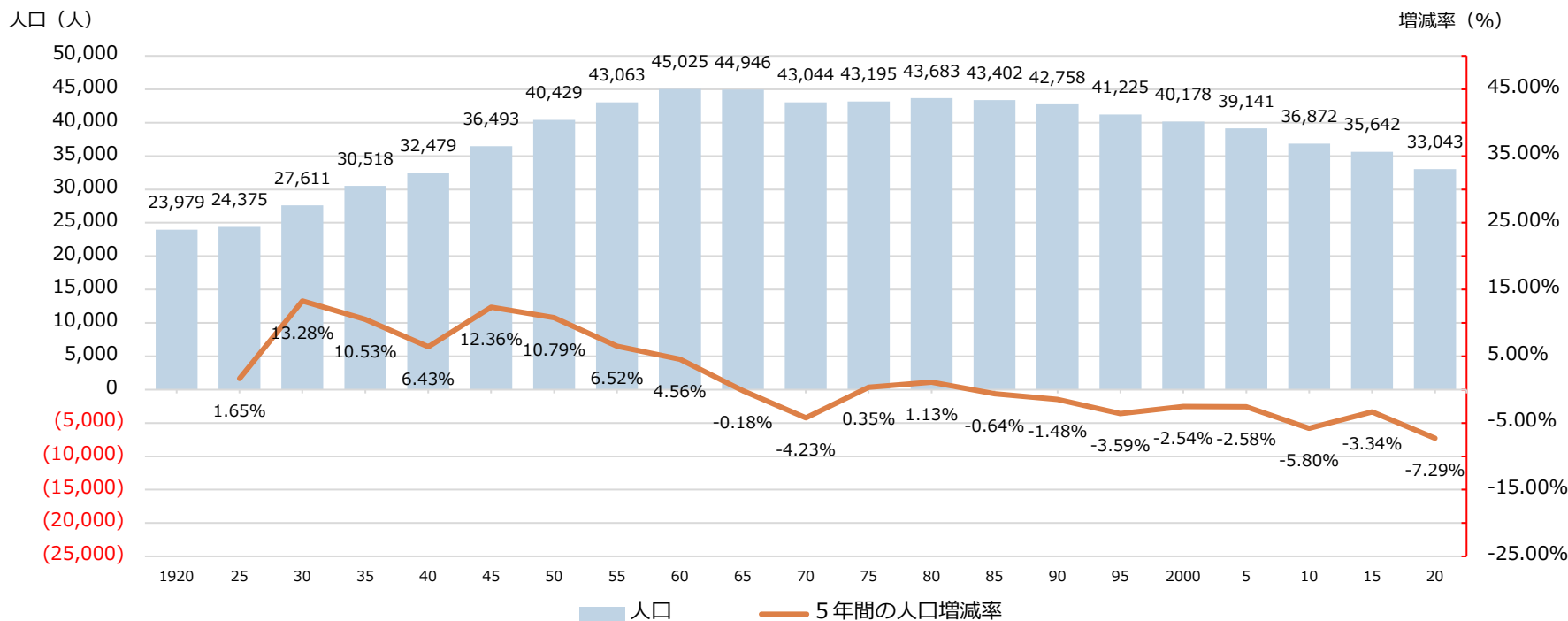
【平成30年度土地利用状況（構成比）】



2.最大の課題は人口減少

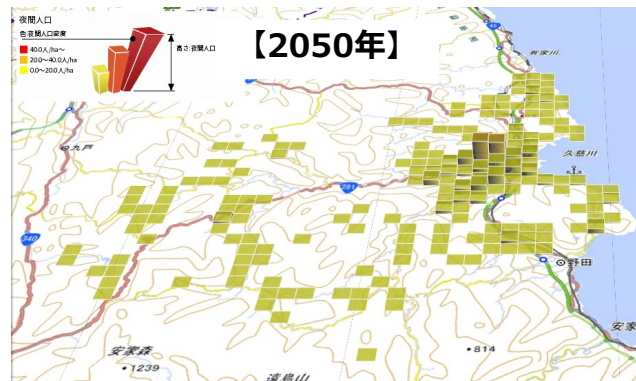
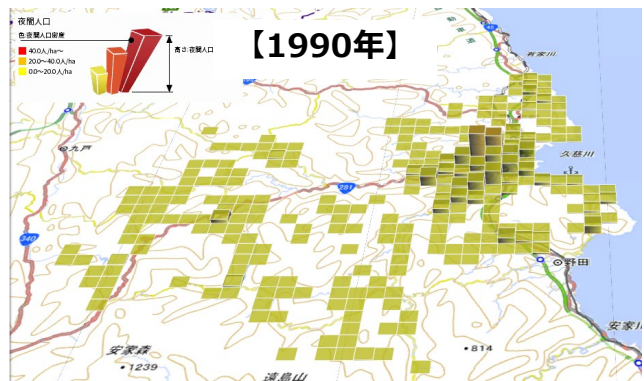
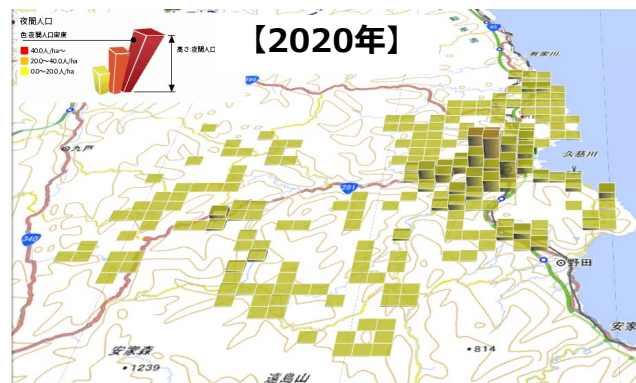
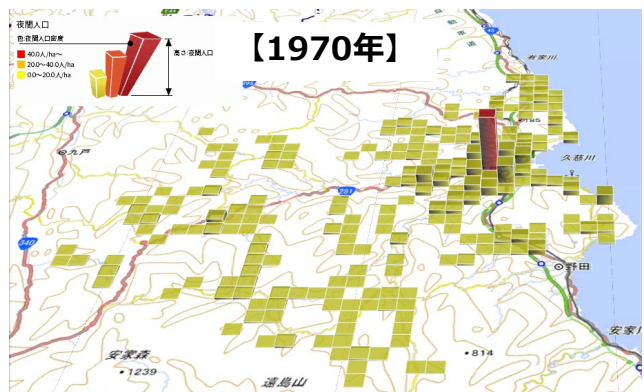
久慈市最大の行政課題は人口減少。県内他市と比較すると、女性人口（15～49歳）の割合が高く、平均年齢が若いこともあり、減少幅が少ない状況であったが、近年急激な人口減少が始まっている。

久慈市の人口は1960年（昭和35年）をピークに、減少を経て、1970年から1990年にかけて横ばい状態を維持。1990年以降は、人口減少に転じ、2020年の国勢調査では、3万3,043人となった。



3.人口減少を可視化

1970年から2050年までの人口分布の経年変化を可視化。可住地面積が小さいことから、スプロール現象は見られず、へき地から中心部への市内転出入も一定数あるが、人口減少が進み、全体的に人口密度が低下していく予想となっている。



4.日本海溝・千島海溝沿い巨大地震

県内で最も多い被害想定

令和4年9月に発表された「岩手県地震・津波被害想定調査報告書」が公表。久慈市は浸水想定が最悪の場合、県内で最も多い4,400人が死亡し、建物8,100棟が全壊するとされた。

津波避難計画を見直し、避難目標地点を設定。各地区での説明会や市全体での避難訓練を実施するほか、自主防災組織の結成、防災士の養成を推進している。

各家庭には防災ハザードマップが配布、HP上にPDFが公表されている。

- より分かりやすく、被害想定を伝える方法はないか
- KMLファイルによる見える化

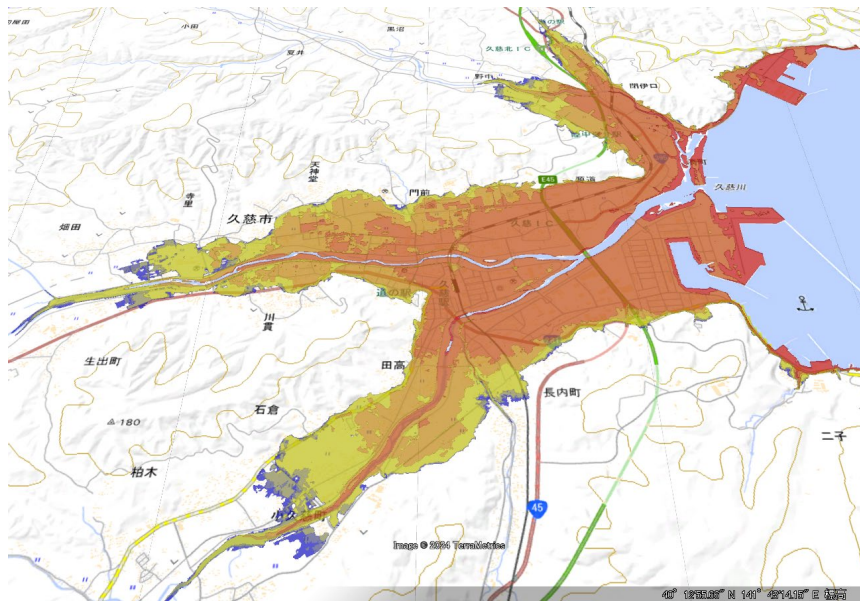
5. 浸水想定区域を可視化

PDFで公開されている、津波ハザードマップをKMLデータ化し、Googleearthで活用可能とした。

国勢調査2020データより、250メッシュの人口を作成。

津波避難区域と人口を合わせて可視化。

今後はソフトの理解度を高め、同一レイヤーにての可視化を進め、住民への理解度向上に努める。



補注：地理院地図を使用、久慈市津波ハザードマップより作成



補注：地理院地図を使用、国勢調査2020から作成

6. 今後の可能性

短期的な目標・活用計画

- ・各種ソフトの理解度を向上させ、津波浸水区域と人口を、同一レイヤー内で、高さと色を使って分かりやすく。
- ・津波浸水深を細分化し、被害想定
の可視化をより推進する。

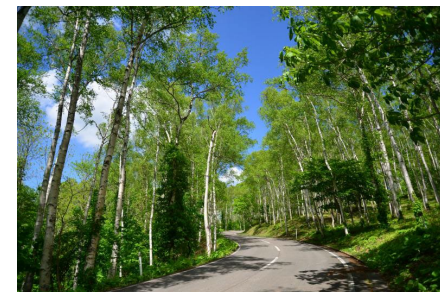
長期的な目標・活用計画

- ・来年度成果品が納入される。都市計画の各種データを活用し、市内の建物現況の高さを可視化。
- ・細分化された津波浸水区域と、市内建物現況を重ね、発災時のイメージを市民と共有。
- ・特定避難困難地域、特定避難困難者について、全体の区域設定、人数のみの公表となっていることから、避難のイメージや避難困難区域の詳細を可視化することは可能か。

白樺ゆれる 琥珀の大地 海女の国

日本一の「白樺美林」

久慈市と葛巻町の境に広がる平庭高原には、約370haに約31万本の白樺が林立し、日本一の「白樺美林」と呼ばれています。県立自然公園に指定され、四季の大自然を満喫できます。



太古の樹脂の化石「琥珀」

久慈市は世界有数の「琥珀」の産地。久慈の琥珀は、まだ恐竜が地上にいた訳9千万年前のもので、世界でも古い年代の琥珀です。国内唯一の琥珀博物館もあります。



「北限の海女」

「北限の海女」は、久慈市の小袖海岸で活躍する海女さんの総称。NHK連続テレビ小説『あまちゃん』の放送により、全国から注目を浴び、7～9月の実演には多くの人が訪れます。

